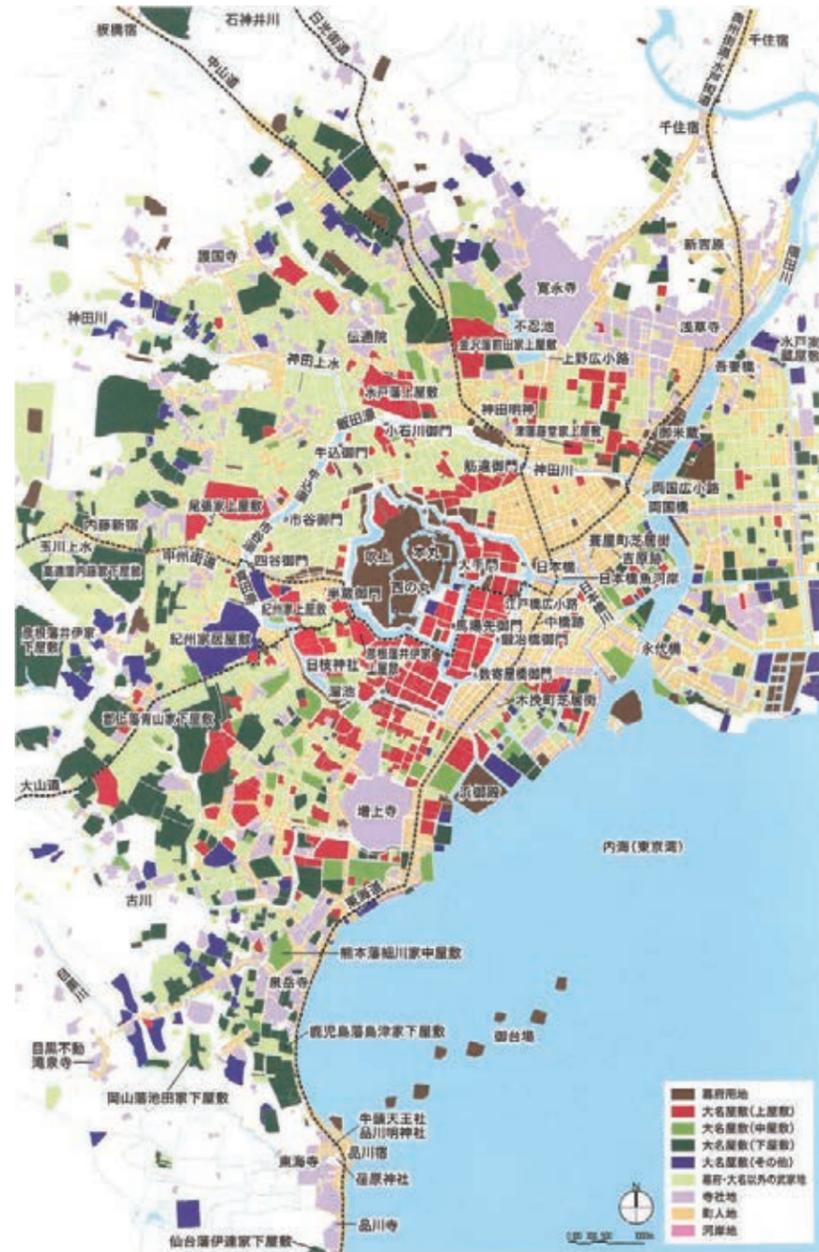


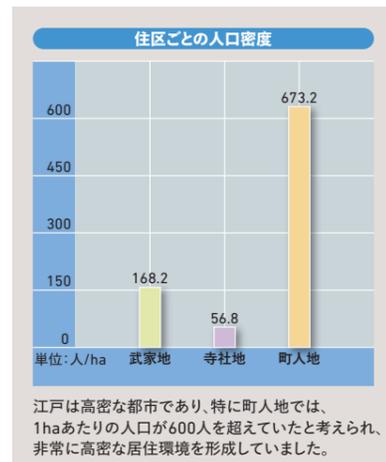
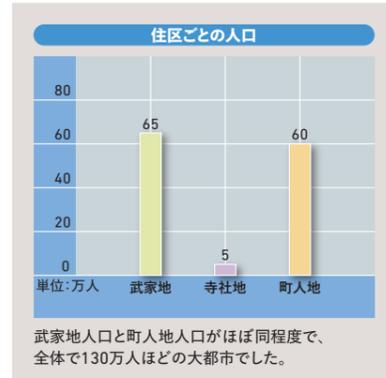
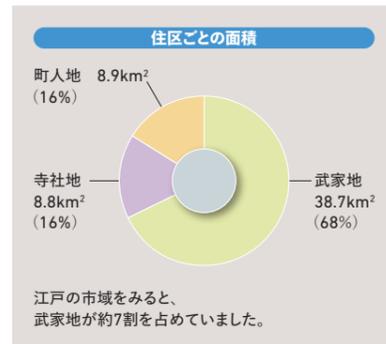
04 江戸の土地利用

江戸時代の都市空間は、主に武士が居住する武家地、寺社の境内が位置する寺社地、町人が住む町人地に区分されていました。江戸においては、武家地の範囲が大きく、全体面積の約7割を占めていました。

江戸に存在した広大な武家地は、今日では公的施設や公園といった形で引き継がれており、東京の都市空間を形成する重要な要素となりました。



江戸後期の土地利用図
出典：岡本哲志『江戸→TOKYO なりたちの教科書：一冊でつかむ東京の都市形成史』（淡交社）



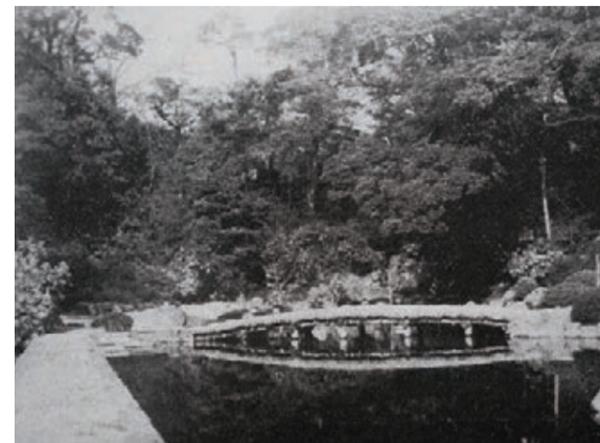
住区ごとの面積と人口
出典：内藤昌『江戸と江戸城』（講談社）に基づき作成。



江戸時代の水戸藩邸付近(上が西の方位)「小石川谷中本郷絵図」都立中央図書館蔵
左上の水戸藩邸付近が、現在の小石川後楽園の位置に該当します。



2009年時点の小石川後楽園(上が北の方位)
提供：東京都建設局



昭和初期の「小石川後楽園」都立中央図書館蔵



現在の小石川後楽園

小石川後楽園の変遷

現在の小石川後楽園は、もともと江戸時代に水戸藩邸上屋敷内に設けられたものでした。この庭園は、池を中心とした「回遊式築山泉水庭園」になっており、神田上水を引き入れ築庭されました。明治に入り、陸軍省の所管となりますが、大正12(1923)年に国の名勝・史跡に指定された後、昭和13(1938)年から東京市(現在は東京都)に管理され公開されています。



朱引園



「江戸朱引内図」東京都公文書館蔵

- 朱引は、「文政江戸朱引図」に描かれた江戸城下の範囲を示した線を指します。
- 天正18(1590)年に徳川家康が江戸に入府して以来、江戸の人口は増加し続け市街地も拡大していきますが、江戸の範囲は明確には定められていませんでした。しかし、江戸時代の後半に差し掛かる文政元(1818)年に、江戸の市域である「御府内」に対する幕府の統一見解を示す朱引図が作成されました。

朱引——江戸の範囲として「文政江戸朱引図」に記された線。名称は、図上の線の色に由来しています。
墨引——「文政江戸朱引図」に黒色で記された線で囲われた範囲。江戸の市街地は主に、町奉行、寺社奉行、目付・大目付によって管理され、墨引は、町奉行の管轄範囲を示していました。